

精神神経系症状

識別番号	年齢 数値/単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動発現時刻	就寝中か否か (就寝中:○、就寝中じゃない:×)	覚醒直 後に発現	就寝中の場合、 就寝時刻から発 現までの時間	回復までの 時間	一眠りして 完全回復	体温	患者の記憶	睡眠驚愕症 等の既往	睡眠驚愕症 等の家族歴	光に対する 反応	他剤による 「異常な行動」 の副作用	異常な行動に 関する既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、親が幻覚を 見ていたよとど言っているのか?)	旧資料No	
1	B07000002	6 月	男性	痙攣 ①痙攣 ②発育遅延	2007/2/11 15:00	2007/2/13 16:00	×	No	—	7時間	No	発熱持続	No	No	No	No	—	痙攣が起きたため入院。 投与21分後、脱力・意識消失・777-7-痙攣。	精-2-12 精-2-75	
2	B07001805	11 月	男性	痙攣	2007/4/1 2007/4/2 2007/4/3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4月1日けいれんを2回程度発症。インフルエンザのため本剤処方。本剤服用後も痙攣を認める。 4月2日入院。本剤2回服用。 4月3日(22:00)発熱は続き、数秒〜10数秒の痙攣が頻発。 3月12日(19:00)嘔吐発現。量が多い、内服後、嘔吐が出現したことを内服させた祖母が不信に思い薬局に問い合わせたところ、量の間違えが確認された。(20:00)傾眠発現。 4月1日(午前)本剤服用。(昼食後)両下肢脱力、大声で叫ぶ症状が発現。本剤服用後、寝なくて、立って歩こうとするがフラフラしてすぐに転ぶ。大声で叫ぶの2つの症状が出現。母親は、娘の通常と違う異常に驚くも、特に何もせず経過観察した。異常行動は、覚醒時に起こった様子。 遠くを見つめ、おぼけが出る等の症状を訴えた。 つじつまの合わないことを話したり、意味不明の言動があった。この時発熱あり。	精-3-17	
3	B07002190	1 年	女性	①傾眠 ②嘔吐 ③過量投与	2007/3/12 18:00	—	—	—	12時間	No	発熱持続	—	No	No	No	No	—	—	精-3-29	
4	B07001353	2 年	—	①異常行動 ②筋力低下	2007/4/1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	精-3-1	
5	B06026623	3 年	男性	幻覚	2007/3/1 11:00	2007/3/1 14:00	×	No	0.5	10分〜20分	No	発熱持続	Yes	No	No	No	—	—	精-2-7	
6	B06026808	4 年	女性	異常行動	2007/3/4 12:00	2007/3/4 17:00頃	×	Yes	5	No	発熱持続	—	No	No	—	No	—	—	精-2-9	
7	B07000067	4 年	女性	痙攣 ①傾眠 ②幻覚 ③頭痛 ④痙攣 ⑤異常行動 ⑥視覚障害 ⑦浮動性めまい ⑧意識レベルの低下	2007/2/28 12:00	2007/2/28 13:00	×	Yes	1	No	発熱持続	No	No	No	No	No	—	—	精-2-16	
8	B07000101	4 年	男性	痙攣 ①痙攣 ②痙攣 ③痙攣 ④痙攣 ⑤痙攣 ⑥痙攣 ⑦痙攣 ⑧痙攣	2007/3/2 午前 2007/3/2 18:00-19:00 2007/3/3 7:00-8:00 2007/3/4 7:00-8:00	2007/3/7 7:30	—	Yes	—	—	Yes	解熱過程	—	No	—	No	—	3月3日けいれん、意識レベル低下(非重篤)発現。 3月4日熱がさがる。 3月6日ふらつき、頭痛あり。(12:30)「目の前が真っ暗、見えない」という。診察時には視力あり。幻覚、視覚異常、ふらつき、傾眠を発現。 3月7日(7:30)「痛い痛い、(部屋の隅を指示して)あそこどこかがあるから痛い」と言う。入眠し、起きた時には訴えなし。	精-2-27	
9	B07000152	4 年	女性	痙攣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	口から泡を吹いているような状態。顔は真っ青。唇はチアノーゼが出ていた。目は開けてはいるがぼんやりとしており、両親の問いかけにも反応がなかった。 内服後、うわ言、痙攣、嘔吐。夕方、回復、嘔吐したためもう一度タミフルを服用させる。朝と同じ症状(うわ言、痙攣、嘔吐)⇒その後再び就寝。	精-2-45	
10	B07000201	4 年	女性	①譫妄 ②間代性痙攣 ③嘔吐 ④意識レベルの低下	2007/3/17 朝夕 2007/3/17 朝夕 2007/3/18 朝夕 2007/3/18 朝夕	2007/3/18 9:00 2007/3/18 内服後	○	Yes	—	30分	Yes	発熱持続	—	No	No	—	—	—	精-2-52	
11	B07000243	4 年	男性	①異常行動 ②痙攣	2007/3/31 13:00 2007/3/31 20:00 2007/4/1 7:30	2007/3/31 14:00 2007/3/31 20:30	—	—	—	—	Yes	発熱持続	—	—	—	—	(低血糖)	①突然笑い出す。 ②両眼球が左上向き、口をバクバクする。呼びかけに応じない。唇の色が黒くなった。	精-2-69	
12	B07000285	4 年	女性	痙攣	2007/3/13 12:30 2007/3/13 13:15 2007/3/13 15:00 2007/3/13 20:00	2007/3/13 13:15:00 2007/3/13 20:00	—	—	—	7時間 発熱性痙攣 が起きてから 7時間後 に回復	Yes	—	No	No	—	No	—	—	精-2-80	
13	B07001669	4 年	女性	①幻覚 ②痙攣	2007/2/28 11:00 2007/2/28 21:30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2月28日(22:00)全身痙攣5分間。意識あり、やや軽い痙攣。(23:00)39.5℃。全身痙攣5分間。意識あり、やや軽い痙攣。(24:00)痙攣5分間。 3月1日(1:00)痙攣4分間。意識あり。痙攣強。幻覚あり(ママの目が真っ赤でこわいという)(4:00)痙攣2分間。幻覚あり(ママの目が赤い、パジャマに丸いシオがついていると指差して言う。 3月29日(16:00)意識障害、幻覚発現。体温39.6℃。「明日おっぱいを飲みに行く」等、意味不明なことを言い出した。(18:00)痙攣発現。(18:50)救急車にて他院へ。到着時は意識ははっきりしていた。帰宅後も、頭痛、腹痛、嘔吐あり。「頭をとってれ」と訴えていた。本剤1回投与から、朝まで記憶がなかった。 3月23日(2:30)30分程度の「発作」。引付なのが悪夢をみたのか、よく分からないと母。(3:00)ひきつけ回復。その後は少しうなり声を上げながら眠ってしまった。	精-3-10	
14	B07001747	4 年	女性	①幻覚 ②痙攣 ③意識変容状態	2007/3/29 16:00 2007/3/30 6:00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	精-3-16	
15	B07001807	4 年	女性	痙攣	2007/3/20 2007/3/21 2007/3/22	—	—	—	—	30分	Yes	解熱後	—	No	No	No	No	—	—	精-3-18
16	B07001809	4 年	男性	意識消失	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	精-3-20	
17	B07000900	5 年	女性	異常行動	2007/2/25	2007/2/25	×	No	—	—	No	発熱持続 解熱過程	—	No	No	—	No	—	「何者かに追われている」との発言。	精-2-23
18	B07000110	5 年	男性	痙攣	2007/3/19 19:20	2007/3/19 20:00	—	—	—	—	—	—	—	No	—	—	—	痙攣(目をむく発作)	精-2-31	
19	B07000148	5 年	男性	①痙攣 ②意識レベルの低下	2007/3/11 2007/3/11 2007/3/12 2007/3/12 2007/3/13 2007/3/13 2007/3/14 2007/3/15	—	—	—	—	—	痙攣は10秒 程度 顔色は1時 間半程度	Yes	—	Yes	No	No	—	—	幼稚園で約10秒程度、真っ青になりボーンとして痙攣を起こしていた。顔色の悪い状態は、約1時間半続いた。(幼稚園保育士から母親が聞いた話)	精-2-42
20	B07000282	5 年	男性	①譫妄 ②幻覚 ③異常行動	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	①口を噛むようなしぐさを繰り返す。 ②多弁、幻覚、物を取るようなしぐさを発現。	精-2-79
21	B07001738	5 年	男性	異常行動	2007/4/6 19:00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(19:30)気分急変発現。誰かたり飛んだりしたが、そのまま様子を見ていた。 4月4日(21:00頃)就寝していたところ急に足をバタバタさせ、その後「おしっこに行きたい」と話しトイレへ。排尿をすませた後走って戻り、何か早口で喋り(家人に内容は分からない)と再度就寝。異常行動の疑い(非重篤)発現。(22:00)その行動があまりに平常の様子と違ったため、異常行動ではないかと当院救急受診。受診時意識清明、見当識良好、神経学的異常所見なかったが、家人の心配が強いため、入院の上経過観察とした。	精-3-14	
22	B07002264	5 年	男性	異常行動	2007/4/3 2007/4/4 2007/4/4	(夕) (朝) (夕)	—	—	—	1時間以内	Yes	発熱持続	No	No	No	No	No	—	2007/3/19 (夜)発熱あり。咳嗽なし。 2007/3/20 (午前)インフルエンザ陽性。本剤、コカール処方(経過中コカールは服用せず)。午前と夕に本剤服用。(44mg×2/日) 2007/3/21 (朝)解熱していた。(10:00頃)朝の本剤を服用する前にたんに登り窓を開けようとして騒いでいた。父親が発見し、抱きかかえ「どうしたのか?」と聞いたところ「窓開かなかつた」と言った。意識して開けようとしたかは不明。異常行動(非重篤)発現。(11:43)再度受診(この時点ですでに異常行動は回復している)。2日間は患児から目を離さないように指導して、本剤を継続することにした。(11:50)異常行動回復。 3月17日(本剤内服1-2時間後)異常行動発現。寝たまま最初手足をピクピクさせ、ワーンと大声で泣き叫び、全身の筋肉を硬直させ、眼は大きく見開いて一点を凝視していた。このような異常反応が2〜3分続き、この反応中は意識不明で、母親がいくら呼んでも反応しなかった。5分位更に母親が子供の名前を呼び続けると、やっと気づいて意識を回復した。その後、くすぐったり、泣いたりして熟睡する様子ではなかった。 3月18日(本剤内服1〜2時間後)寝たまま、まず手足をピクピクさせワーンと大声をあげて泣き叫び、全身の筋肉を硬直させ、眼は大きく見開いて一点を凝視していた。このような異常行動が2〜3分続き、この間は、意識障害のため、母親がいくら呼んでも正常には答えなかった。約5分後に、やっと母親の叫び声に気づいた。(夕方)41℃の高熱があったため、本剤68.1mgを内服させたところ、同じ様な異常行動が起きた。	精-3-32
23	B07000278	6 年	男性	異常行動	2007/3/20 2007/3/20	午前 夕	2007/3/21 10:00	—	—	2〜3分以内 長くても10 分以内	—	解熱過程	—	No	No	No	—	—	精-2-78	
24	B07001808	6 年	男性	異常行動	2007/3/17 2007/3/18 2007/3/18 2007/3/19	夜 朝 夕 朝	—	—	—	—	—	—	No	No	—	No	—	—	精-3-19	